

「サプライチェーンの迅速・柔軟な組換えに資する衛星を活用した
状況把握システムの開発・実証」
(終了時) 制度評価報告書(案) 概要

目 次

分科会委員名簿	1
評価概要(案)	2
評点結果	4

はじめに

本書は、NEDO技術委員・技術委員会等規程第32条に基づき研究評価委員会において設置された「サプライチェーンの迅速・柔軟な組換えに資する衛星を活用した状況把握システムの開発・実証」(終了時)の研究評価委員会制度評価分科会(2023年11月20日)において策定した評価報告書(案)の概要であり、NEDO技術委員・技術委員会等規程第33条の規定に基づき、第76回研究評価委員会(2024年3月18日)にて、その評価結果について報告するものである。

2024年3月

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
研究評価委員会「サプライチェーンの迅速・柔軟な組換えに資する
衛星を活用した状況把握システムの開発・実証」
(終了時)制度評価分科会

分科会長 中村 秀明

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 研究評価委員会
「サプライチェーンの迅速・柔軟な組換えに資する衛星を活用した
状況把握システムの開発・実証」

(終了時) 制度評価分科会

分科会委員名簿

	氏名	所属、役職
分科会長	なかむら ひであき 中村 秀明	山口大学 大学院創成科学研究科 工学系学域知能情報工学分野 教授
分科会長 代理	おぎき のりあき 尾崎 典明	エスファクトリー 代表
委員	あおき ひでたか 青木 英剛	一般社団法人 Space Port Japan 理事
	きじま ゆたか 木嶋 豊	株式会社アイピーアライアンス 代表取締役
	なかすか しんいち 中須賀 真一	東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授

敬称略、五十音順

「サプライチェーンの迅速・柔軟な組換えに資する衛星を活用した
状況把握システムの開発・実証」

(終了時) 制度評価分科会

評価概要 (案)

1. 評価

1. 1 意義・アウトカム (社会実装) 達成までの道筋

国境を越えた複雑なサプライチェーンに大きく依存する現代経済において、サプライチェーンの強靱化が経済安全保障における重要なテーマである中で、宇宙ビジネスの活性化を国が率先して成功事例を創出するという本事業は、その意義や必要性が極めて高い事業であったと評価できる。また、NEDO として初めてとなる懸賞金事業の採用により、応募者にとって制約が少なく、ベンチャー企業や若手研究者の応募が多く集まっており、狙いどおりの成果が得られたと評価できる。さらに、新たな懸賞スキームを使ったアウトカム達成までの道筋は明確であり、一定の課題の抽出および成果を得ることができたものと評価できる。加えて、懸賞金事業のため、知的財産や標準化に関して、基本的には企業の意思に任せるオープン・クローズ戦略、バイ・ドール制度を適用し、運用は適切であったと評価できる。

一方、アウトカム達成の道筋として、SBIR 推進プログラム、ディープテック・スタートアップ支援事業、認定 VC 制度などの「NEDO 支援プログラムの紹介」以外にも、関連事業との連携、実用化に向けた具体的なフォローアップなどの支援策も充実させる必要があると思われる。そして、宇宙ビジネスにおいては、ユーザーになりうる省庁や自治体が最初の顧客になる流れを国と NEDO が支援できれば、より宇宙ビジネスが活性化するものとも思われる。また、宇宙関連企業やスタートアップは知財の意識が低い場合があるので、特許に関する注意喚起を促すなど、「事業化に向けた知財関連のアドバイス」などがあると更によかったと思われる。

1. 2 目標及び達成状況

受賞者の多くが、アウトカム目標を達成すべく、事業化に向けた開発を既に進めていることは評価できる。また、受賞者への取材や広報を通じ、本事業が衛星データの活用事例として社会に認知され、衛星利用の促進に寄与するなど、宇宙産業の活性化と裾野産業の育成などが見込まれる。さらに、今回の公募では、適切なテーマ選定が多くの応募件数につながり、ワークショップ、外部の有識者などを活用した審査プロセス、成果の発信などの充実したプログラムが用意され、アウトプット目標が十分に達成されたと評価できる。

一方、多くの提案が、POCにとどまっており、早い段階からアジャイルな開発を進めるような仕組み作りに取り組んではどうかと思われる。また、その後の受賞企業の活動をフォローし続けることも期待したい。今後、衛星データ活用の裾野を拓くためには、広範でかつ様々なプレイヤーが参加できるよう引き続き情報発信の更なる改善を行っていく必要があると思われる。さらに、今後同様の事業を実施する際には、成果のフィードバックも踏まえ、アジャイルにアウトプット目標の見直しを行うことが望ましい。加えて、メンターや審査委員については、特定の知識や経験に偏った人選にならないよう十分に配慮願いたい。

注) POC : Proof of Concept (概念実証)

1. 3 マネジメント

NEDOでは初めてとなる懸賞金事業を実施するに当たり、各プロセスを的確に設計運営し、「懸賞金交付等審査委員会」や実施者との密なる連携が図られ、成功裏に導いたことは、高く評価できる。また、公募テーマや懸賞金額等は適切に設定されており、推進部によるフォローと開発のスケジュール管理が適切に運用できたことは評価できる。さらに応募状況についても、想定以上の応募があり、懸賞金制度がモチベーション向上に効果があったと判断できる。

一方、スタートアップの業務の進め方なども尊重しつつ、応募者の負担にならないプロセスの進め方(メンタリング、審査方法、日程調整、メールやりとり含めた業務の進め方全般)について見直しする余地はあると思われる。また、今後同様の事業を行う際には、公募周知期間の長期化や、想定応募者層に対する適切な周知、提案募集期間に教育的なワークショップを実施するなど、周知方法と組織的な公募の内容充実への工夫も期待したい。さらに事業の効果を高めるために、懸賞金の更なる増額も検討いただきたい。加えて、今後の同様な事業においては、衛星データについて、画像データなどはより選択肢を広げ利用できるようにすることを検討願いたい。

2. 評点結果

評価項目・評価結果	各委員の評価					評点
1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋						
(1)アウトカム達成までの道筋	A	A	B	B	B	2.4
(2)知的財産・標準化戦略	B	B	A	B	B	2.2
2. 目標及び達成状況						
(1)アウトカム目標及び達成見込み	A	B	A	B	B	2.4
(2)アウトプット目標及び達成状況	A	B	B	B	B	2.2
3. マネジメント						
(1)実施体制	A	B	B	C	B	2.0
(2)研究開発計画	A	A	B	A	B	2.6

《判定基準》

A：評価基準に適合し、非常に優れている。

B：評価基準に適合しているが、より望ましくするための改善点もある。

C：評価基準に一部適合しておらず、改善が必要である。

D：評価基準に適合しておらず、抜本的な改善が必要である。

(注) 評点は A=3、B=2、C=1、D=0 として事務局が数値に換算・平均して算出。